巻頭言

平成20年度看護研究交流センター年報発行にあたって

平成21年度は新潟県立看護大学にとっても看護研究交流センターにとっても，1つの区切りの年度となりました．大学では渡邉　隆先生を新学長に迎え，また看護研究交流センターにとっては，長年センター長としてご活躍された吉山直樹先生が退職されました．このような事情もあり，センター長として私が指名され務めることとなりました．私は一般の看護研究交流センター研究員ではありましたが，センターの運営には全く関わったこともなく先行きが不安でした．しかし，各部会長・部会構成員も留任ということで，これまでの企画・方針を引き継いで業務を行っているため，助けられて務めている次第です．

平成20年度の公開講座については生涯学習・研修支援部会の報告で詳細に記載されると思いますが，一般公開講座の特別講演として東京女子医科大学の佐藤紀子氏に「看護師の臨床の『知』と，看護師が経験を積むことの意味」，また東京医療保健大学の大久保憲氏に「感染制御に関する新しい動き」をご講演頂きました．看護職を対象とした専門公開講座では中京大学法科大学院の稲葉一人氏から医療安全セミナー，本学の橋本明浩氏，永吉雅人氏から看護情報処理セミナーを2回，また「どこでもカレッジプロジェクト」とタイアップした専門講座として聖路加大学の梶井文子氏，九州歯科大学の柿木保明氏，本学の原等子氏よりそれぞれご講演頂きました．

一方，平成20年度の地域課題研究としては堀良子教授ほかの「長期臥床在宅高齢者と健常者の皮膚表面の健康度比較―清潔行為・スキンケアとの関連による比較―」，直成洋子講師ほかの「外来通院している2型糖尿病患者の継続看護支援に関する研究―地域で生活している糖尿病患者が抱く思いから―」，水澤久恵助教ほかの「看護師を対象とした倫理教育プログラムの開発と評価に関する研究―上越地域看護師の倫理的問題解決能力の向上を目指して―」，藤川あや助教ほかの「新潟県内の訪問看護ステーションにおける在宅療養支援診療所との連携に関する研究」，柿川房子教授ほかの「がん看護 CNS 教育と臨地実務普及に向けての実践研究―社会人修士課程及び課程修了後のフォローアップ―」の5つの研究が行われました．この年報はこれらの地域課題報告を主体とした看護研究交流センターの平成 20 年度の総括ですのでご覧ください．

今後も新潟県立看護大学看護研究交流センターは大学人や看護職はもちろん，県民に開かれた教育・研修・研究機関としてその役割を果たしてゆきたいと考えておりますので，これまでと変わらないご支援をお願い申し上げます．

平成21年8月5日

新潟県立看護大学看護研究交流センター
センター長　中野正春